

デジタル・アーキビストの養成レター

2004 12

岐阜女子大学

URL:<http://www.gijodai.ac.jp/>

デジタル・アーキビスト

URL:<http://dac.gijodai.ac.jp/gp-da/>

[平成16年度・文部科学省]
現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に

岐阜女子大学の取り組み 「デジタル・アーキビストの養成」 が採択されました。



伊奈波神社 巻物 撮影

岐阜女子大学は21世紀で活躍する有能な女性の育成を目標のもとに「デジタル・アーキビストの養成」の計画を進めてまいりましたところ、平成16年10月に「現代GP」に選定されました。

文部科学省から社会の強い要請のある教育プロジェクトとして選定されましたことは、岐阜女子大学として、まことに名誉なことであると感謝しています。

文部科学省では、本学の「デジタル・アーキビストの養成」の計画に対し、「デジタル・アーカイブに関する大学教育は始まったばかりであり、社会現象に追随できない現状にあります。その中で文化的な教養を兼ね備えながら、専門的な技能をもつ総合的な人材の育成という特色を打ち出している点は高く評価できます。」さらに「これから必要な人材の育成という点で、各大学の参考になるものと考えられます」という評価をいただきました。今回の「現代GP」に選定された「デジタル・アーキビストの養成」では、その基盤作りとして、デジタル・アーカイブの研究をおこなう文化情報研究センターやデジタル博物館を設置し、教育面では新しく平成17年度から文化創造学部文化情報コースを置き、大学教育の支援を推進します。

また、この養成プロジェクトに対し、全国の多くの関係者のご協力をいただき、大学といたしましてはこの期待にこたえられるように、一層の努力をいたしますので、今後も各方面の方々のご協力をお願いいたします。

岐阜女子大学 学長 堀 幹夫

文化創造学部

■文化創造学専攻■

●観光文化コース ●文化情報コース ●書道文化コース ●英語文化コース ●言語文化コース ●教育文化コース

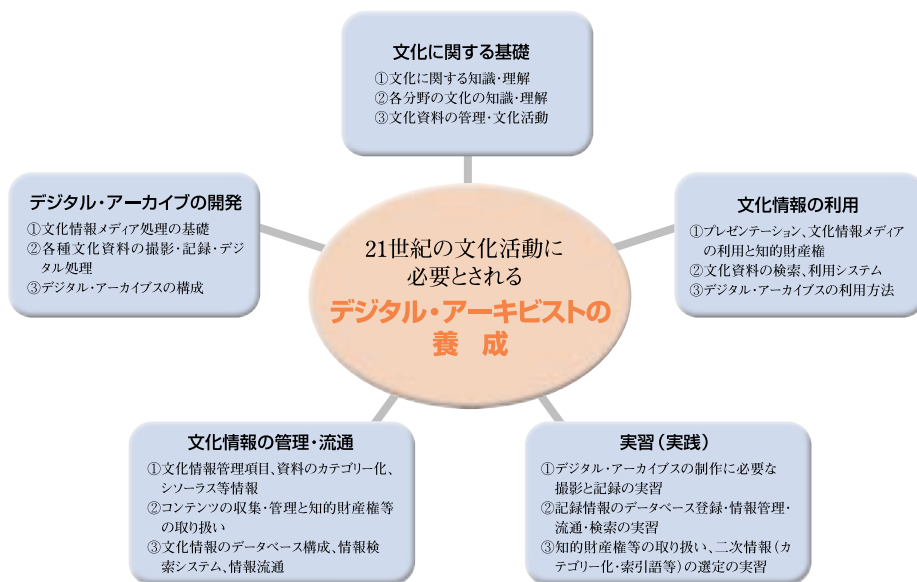
■幼児文化学専攻■

●幼児文化コース

岐阜女子大学 URL:<http://www.gijodai.ac.jp/>
デジタル・アーキビスト URL:<http://dac.gijodai.ac.jp/gp-da/>

デジタル・アーキビストは、文化創造学部で
文化情報コースを主専門又は副専門として学ぶことで専門的な教育を受けることができます!

—文化情報コースでのデジタル・アーキビストの養成カリキュラム—



沖縄舞踊 スンサーミー



回転台 撮影



北海道開拓村 馬車鉄道

—デジタル・アーキビストの養成のための環境整備—

岐阜女子大学では従来から、社会的要請を踏まえ、デジタル・アーキビストとしての人材の養成が大学の社会的使命であることを考慮し、デジタル・アーカイブ関係の研究・教育・教育実践に利用できる施設および文化情報を蓄積し、人材養成のための教育プログラムを開発するとともに、教育実践の現場を整備してきました。

- 北海道から沖縄までの全国的な文化資料および岐阜県内の博物館、市町村資料等約十数万件のデジタルコンテンツの記録・管理。
- 米公文書館の日本関係の映像資料等約5千件や、古文書、文化財、世界遺産(フランス、東欧等の資料を含む)を始めとした各種文化資料のハイビジョンビデオカメラ等による動画資料の管理。
- 高精度スキャナ、デジタル化各種装置、100インチプロジェクタ等の提示装置、約120台の映像処理・データベース開発ができるパソコン、VHSからハイビジョンまでの各種映像を編集できるビデオ編集機等の設置。

今後、多くの分野で必要となる文化資料の情報化とその流通のデジタル化技術を併せ、文化活動の基礎としての著作権・プライバシー、文化芸術等の文化情報の内容に関する基礎を理解し、デジタル・アーカイブ化ができる人材の養成を展開します。

いよいよ、我が国でも岐阜女子大学を舞台に『女性ならではの』感性を生かしたデジタル・アーキビストの養成が本格化します！

デジタル・アーキビストとは

情報社会における文化活動を支える専門職として、今後多くの分野で必要となる文化資料のデジタル化と併せ、文化活動の基礎としての著作権・プライバシーや文化芸術等を理解し、総合的な文化情報の創造、保護・管理、流通利用を担当できる人を指します。岐阜女子大学文化創造学部では、文化情報コースを主専門または副専門とすることで、図書館司書や学芸員・教員などの資格とともにデジタル・アーキビストとしての専門的な教育を受けることができます。

—デジタル・アーキビストの能力の必要性—

■デジタル・アーキビストと資格・関連職業

「デジタル・アーキビスト」を検討し始めた最初の頃は、狭い分野での資料の情報化・管理ができる人材の育成として考えていました。しかし、教育界、産業界、行政関係の人々の意見を聞くことで、もっと広い分野で必要な、情報化社会での基礎資格としてデジタル・アーキビストとしての人材が要請されていることがわかりました。具体的には次のような展開が考えられます。

教育関係者

—教員・社会教育主事等—

教員や社会教育主事などの教育関係者は、デジタル・アーカイブの体制や利用の他に、日常的に教材や個人情報を使う職業である。このため、デジタル・アーキビストとしての基礎能力をもつことが、21世紀の情報化社会での教員には要請されている。とくに、教員・社会教育主事等には、教材も含め多様な情報を取り扱うため、映像・音声等の処理能力の他に、情報の管理・著作権・プライバシーなどの基本的な情報活用の能力が必要である。

文化情報の管理関係者

—学芸員・図書館司書等—

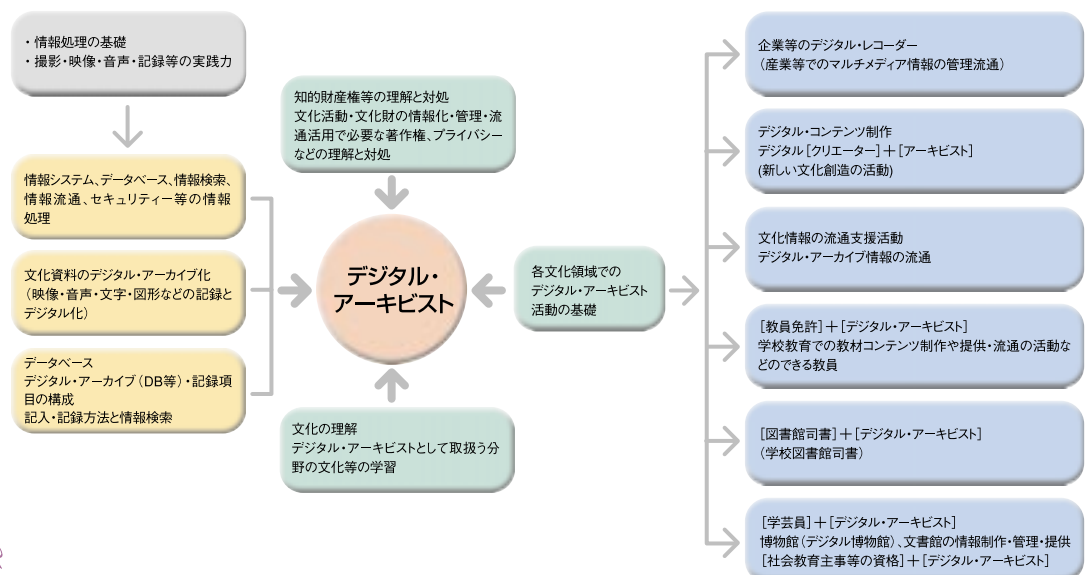
学芸員や図書館司書などは、基本的に情報活用の能力が必要である。とくに、各施設の情報の管理や利用者が情報を使い、目的とする資料を見出したり、プレゼンテーションができる、新しい情報活用を支援するデジタル・アーキビストとしての能力が必要とされる。

企業でのデジタル・クリエイター、デジタル・レコーダー

企業等でも映像・音声・図形等のデジタル資料の管理と流通提供が、印刷・教材など各種メディア産業で始められた。今後、多くの企業にデジタル・アーキビストの能力を持つ人材が必要になります。



南宮大社例大祭 蛇山神事



文部科学省所管財団法人「学習ソフトウェア情報研究センター」の学習情報研究(2004.11)
「文教の窓」に岐阜女子大学のデジタル・アーキビストの養成が紹介されました。

文教の窓

文科省、デジタルアーキビストの養成を支援

文部科学省は、知的財産関連教育の推進という政策課題に沿うものとして、岐阜女子大学が行うデジタルアーキビスト養成の教育プログラムの開発・実践に対し、財政支援を行うことを決定した。

ここ数年、各種の博物館、図書館、資料館等において、その収蔵物のデジタル化による保存と流通への取り組みが全国的に進められつつあり、企業においても、その保有する資料の損耗や転送を助ぎ、活用を円滑化のためアーカイブ構築への取り組みが始まっている。

デジタルアーカイブの構築と運用には、デジタル技術を生かすとともに、知的財産の創造、保護、管理、流通等についての知識を持った人材が必要であるが、わが国では、現在のところ、このような人材を体系的に養成する状況に至っていない。

岐阜女子大学では、このような社会的要請を踏まえ、文部科学省の支援のもとに、16年度から3ヵ年計画でデジタルアーキビスト養成の教育プログラムの開発・実践を行うこととしたものである。

その実施計画等は、同大学後藤忠彦副学長によると、次のように構想されている。

I 人材養成の目標

- 1 博物館、図書館等での文化資料のデジタル化、情報の管理、流通、利用が支援できる人材の養成
このために、現状の博物館の学芸員、図書館司書、社会教育主事等の資格と、著作権等の知的財産の理解とデジタル技術のあるデジタルアーキビストの能力を併せ持つ教育を行う。
- 2 文化資料のデジタルアーカイブ化と管理、流通ができる人材の養成
地方公共団体や企業等で文化資料のデジタルアーカイブ化とデータベース等を用いて、著作権等に配慮し、管理、流通ができる人材を養成する。
- 3 教育、産業等でデジタルアーカイブ等の開発、流通、利用のできる人材の養成
教育界や産業界で、知的財産を配慮し、デジタルコンテンツの開発・利用やこれらの流通業務ができる人材を養成する。

II 実施計画等

- 1 社会のニーズ調査と教育カリキュラムの検討
知的財産を取り扱う企業、博物館、美術館、図書館等の文化情報機関、教育機関、メディア等について、

知的財産について教育すべき必要事項のニーズ調査を行う。

それをもとに、岐阜ミュージアム、メディア関連企業、教育、博物館、図書館等の関係者と協議し、かつ、これまでの文化情報メディア学科の成果等を踏まえ、デジタルアーキビスト養成のカリキュラム案を作成する。

2 関係機関との連携

岐阜ミュージアム、NPO法人地域資料情報化コンソーシアム、県博物館、県図書館、メディア関連企業、総合教育センター等とデジタルアーカイブ開発、デジタルアーキビスト要請について連携し、教育指導内容、教材について検討する。

とくに、各分野における著作権、プライバシー、産業財産権、商標、特許、意匠などの視点からの具体的資料、事例の提供と教材化を連携して行う。

また、デジタルアーカイブ開発の技術や新しい製品等を用いた教育体制を構築する。

3 教材開発

知的財産関連は、専門的に著作権、プライバシー、情報と人権(人格権も含む)、産業財産権(特許を含む)で学習するが、具体的な事例や文化芸術活動等に配慮した教材開発を行う。

4 実践的な実習を主とした教育方法の確立

講義のほかに、岐阜ミュージアム、NPO法人地域資料情報化コンソーシアム、文化情報研究センター、メディア関連企業等の協力を得て、具体的な実践体験を中心とした実習を重視した教育を行う。

＊

文部科学省では、岐阜女子大学が有能なる職業人の育成という目標のもとにデジタルアーキビストの養成計画を打ち出したことについて、「デジタルアーカイブに関する大学教育は始まったばかりであり、社会現象に追随できない現状にあります。その中で文化的な教養を兼ね備えながら、専門的な技能をもつ総合的な人材の育成という特色を打ち出している点は高く評価できます。」としており、また、「これから必要な人材の育成という点で、各大学の参考になるものと考えられます。」と、この取り組みを評価している。

＊

アメリカでは、キュレーターと同じようにアーキビストという職能がすでに定着しており、その能力認定制度も実施されている。

岐阜女子大学で実施されるデジタルアーキビストの養成教育が今後さらに広がりを見せるとともに、その資格付与のあり方についても検討される必要が生じている。